

平成27年1月31日

水噴出装置付きサッシブラシ「明和君3号」の製作

乙部町立明和小学校
教頭 佐々木 朗

1 はじめに

水噴射装置付きシリーズとして、1号はハンディワイパーの窓拭き、2号は長柄の窓ワイパーを製作し、日常利用して重宝している。今回職場の窓拭きをして、サッシ枠にたくさんの虫や泥があることに改めて気づき、ハンディワイパーから噴出す水で、洗い流した。「ならば専用機の方が効率がいい。」と思い、即日、ホームセンターに走った。頭の中の構想はもう決まっている。今までの噴霧器の先に、ワイパーの代わりにブラシをつけるだけである。まあまあ、思い通りに近いものができたので、ここに報告する。



2 材料

明和君シリーズでおなじみの噴霧器 1300 円、サッシブラシ 250 円、あと細かいものとして4ミリのアルミパイプ4センチほど、ホースバンド（直径3センチほど）、コーキング材など、およそ2000円

3 作り方

最初にブラシの柄の部分を手で切り落とし、切断面をなめらかにします。

次にホースバンドをブラシに取り付け、噴霧器の取っ手に取り付けます。この時、噴霧器の先端のノズルを取り外してから付けます。しっかり固定する場所がきまったら、マジックで、噴霧器のパイプの穴の位置、そして、ブラシに開ける穴の位置にしるしを付け、一度はずします。



ブラシに水の出る穴を開けます。

ドリルで少し角度をつけて、4ミリの穴を開けます。このとき、ブラシの毛がいくらか落ちてしまいますが、やむをえません。ここにアルミパイプを通すこととなります。

噴霧器のパイプにも穴を開けます。最初に1.2ミリぐらいの小さいドリルで穴を開けてから、だんだん大きくしていくとずれずにできます。パイプですので、穴のところまで来ると、「ズボッ」といきますので、すぐにわかります。さらに、穴より1センチ程度のところで、噴霧器のパイプを切断し、先端に適当なビスを突っ込み、先端より水が出ないようにします。



次はアルミニウムの棒の加工です。4センチメートルぐらいに切ります。多少力をいれて、ブラシで窓をこすっても、窓を傷つけないように、1センチメートルぐらい設置面から離す長さです。噴霧器のパイプに挿入する方は、斜めに削っておきます。

ここまでできたら、もう一度ホースバンドでブラシと噴霧器の取っ手を固定します。本締めをする前に、

アルミパイプを通します。この時、パイプを削っている方を噴霧器の



パイプに通し、削られている方向をタンク側とします。

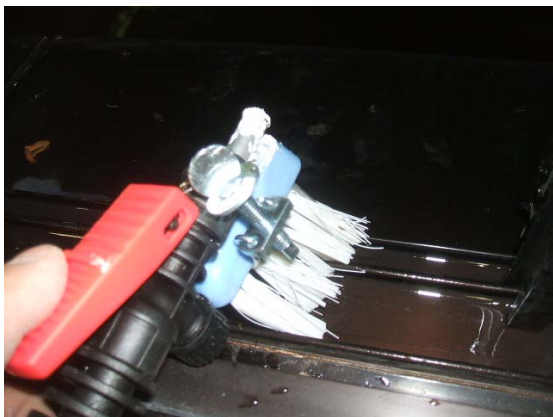
これで完成ですが、パイプのつなぎ目よりポタポタと水がもれるのは、格好悪いので（実害はありませんが）コーキングをします。また、取っ手をもって窓サッシを清掃すると、噴霧器の取っ手とパイプを固定しているねじがゆるみ、ブラシが回ってしまい使いづらいので、ねじを一本打っておきます。

4 使い方

タンクを肩にかけて、水を入れ、ポンプを上下させ圧力をかけてお



きます。赤いレバーを握ると、水が勢いよく出ます。



5 終わりに

明和小学校では、アルミサッシに気持ち悪いほどのてんとう虫やカメ虫が住みつき、春、秋には、室内に入り、ガムテープで駆除に追われます。まだ、幼虫のうちに退治すると、暖かくなっても、虫の発生は抑えることができると思います。少し使い込んでみて、改善をしていきます。